



東京部会(第98回)

日時:	2018年2月26日(火) 19:00-21:15
場所:	慶応義塾大学三田キャンパス研究棟 446号会議室
参加者:	[順不同・敬称略] 篠原聡一(京都学園大学)、加藤一誠(慶応義塾大学)、佐藤英司(福島大学)、鈴木深(東京証券取引所)、岡部ちはる(東京証券取引所)、升野伸子(筑波大学附属中学)、杉浦光紀(都立秋留台高校)、埴枝里子(都立府中東高校)、高橋勝也(都立武蔵高・中)。藤巻朗(目黒学院中・高)、岸香おり(ICU高校)、鈴木孝治(日本経済教育センター)、後藤洋政(慶応義塾大学)、新井明(上智大学非常勤講師)、以上14名。

(1)3月の年次大会第二部金融に関する質問事項の検討が行われた。

講師の鹿野嘉昭明先生(同志社大学)に対する質問事項に関して、大阪部会の山本先生(奈良学園中高)と大塚先生(府立三国丘高)から出された項目を10に集約した資料をもとに検討を行った。10の質問事項では多すぎるので三つ程度にさらに整理して、鹿野先生の講演およびその後の質疑のベースにすることとなった。

具体的には、①限られた時間で金融の本質を教えるには?②マクロの金融だけでなく、家計、企業に関する金融の教育が求められているが一体として理解させるにはどうすれば良いか?③貨幣と金融に関連して仮想通貨などの最近の動きをどう理解しておけば良いか?の三点を中心に整理してゆくことになった。

(2)夏の経済教室の内容に関して検討が行われた。

夏の経済教室の日程と会場は以下の通りで、確定した。

8月2日(木)名古屋中学、8月3日(金)名古屋高校、会場:ウインクあいち

8月6日(月)大阪高校、8月7日(火)大阪中学、会場:国民会館

8月9日(木)、8月10日(金)東京高校、会場:東証ホール

8月16日(木)8月17日(金)東京中学、会場:東証ホール

予定内容は、以下の通りである。

名古屋・大阪中学校対象:入門講座、実践紹介が2つ。エコノミストによる講演の四コマ。

名古屋・大阪高校対象:東証による講義、実践紹介、講義(労働問題)、指導要領関係の講義の四コマ。

東京高校対象:東証講義、講演2つ(財政問題、教育問題)、講義(労働問題)、大学新テストの検討、指導要領関係の講義、歴史シリーズ講義、実践紹介の八コマ。

東京中学校対象:東証起業プログラム紹介、入門講座、実践紹介4つ、講義2つ(地理、エコノミストによる時事テーマ)の八コマ。

なお、実践紹介では完成された実践紹介ではなく、その実践を作り上げるプロセス、ノウハウを紹介してゆくことを予定している。実践報告の内容、講演講師の確保、講演や講義のテーマなど今後、さらに検討を加えて確定してゆくことになった。

(3)佐藤英司先生(福島大学)より実践報告があった。

「高校生を対象とした市場競争の意義に関する授業実践」というタイトルの、福島大学での高大連携による経済学導入研究プロジェクトによる授業実践とその効果の報告である。

授業は、競争のメリットを理解させるために、教科書で書かれているような、競争は完全競争市場において行われて独占、寡占になると競争が制限されるということではなく、独占、寡占市場でも競争(ベルトラン競争)が行われていることを理解させることをねらいとしている。



授業の流れとしては、まず、利潤最大となる価格設定行動の確認のため、文化祭での模擬店の例を出し、展開1で独占市場における利潤最大となる価格を数値計算して発見させる。そのうえで、展開2で競争が始まったときにライバルと対抗しながら利潤が得られる水準、均衡価格の発見をさせて、独占と価格競争均衡の違いを理解させる。まとめとして、価格競争均衡における効率性や市場競争の意義を理解させるというものである。

実際の高校生向けの授業(高校1年生対象)では、展開1に関しては、9割以上の生徒が独占価格の設定を理解し、展開2では6割弱の生徒が、価格競争時の企業間の相互依存税を理解でき、競争によるプラス面や、競争は大変だけれど大切だという自由記述の回答を得たとの報告であった。

検討では、この例に関しては、ゲーム理論でも扱える可能性があるとの指摘や、教科書の記述と現実の寡占市場での競争のギャップに関しては生徒からの質問が多く出る箇所なので、これを使ってそれを埋めさせることができるのではないかという意見がでた。また、グループで教科書の記述がなぜこうなっているのかを話し合わせて、競争のメリットを考えさせるという授業展開もできるのではないかと指摘もされた。

(4) 高橋勝也先生(都立武蔵高・中)より東京都の高校入試に関する紹介があった。

2月23日に実施された東京都立高校の入試での社会科の問題(公民分野)で、食料の需給のデータを使った記述問題が出題されたが、模範解答では単なるデータの読み取りだけに終始したものが発表され、経済教育の観点から、これでは経済に関してしっかり教えようとするインセンティブが働かないのではないかという危機感を感じているという報告であった。

検討する時間がとれなかったが、多くの学校では、二学期に入って公民的分野がはじまり、経済は11月とか12月に始めるという実態があり、経済の考え方をじっくり教える余裕もなく、授業を進めざるを得ない現実がある。この問題は、年次大会での中学公民の部などでさらに検討する事項であるという確認で終了した。

(5) 今回は、年次大会や夏の教室などの検討に多くの時間が割かれたが、そのなかでの意見交換や実践の検討など、密度の濃い部会が展開されたと見えよう。

(記録と文責:新井)

次回の開催予定:3月は年次大会のため休止。4月以降は、18年4月26日(木)、5月28日(月)いずれも19:00～21:00 会場は慶応義塾大学三田キャンパス研究棟446会議室。なお、慶応大学の会場には受付に断らずに直接行ってほしいとの要請がされている。